

江戸時代に作られたとみられる古い太鼓。子どもたちの練習用として復活した＝1日夜、北九州市小倉北区、金子淳撮影



祇園太鼓 時越え響く

民家で確認 子ども用に復活

18と20日の祭り本番に向けて練習が続く小倉祇園太鼓。北九州市小倉北区の米町1丁目町内会で、234年前の江戸時代に作られたとみられる古い太鼓がこの夏復活し、子ども用太鼓として勇壮な音を響かせている。

太鼓は小倉祇園太鼓保存振興会の常任理事で、新井硝子店（同市小倉北区）3代目の新井義則さん（69）の自宅に昔からあったもの。昨年末に革を張り替えた

ころ、内部から安永9（1780）年に大坂渡辺村（現・大阪市浪速区）で作られたとする墨書きが見つかった。約400年前から続く小倉祇園祭で使われたとみられる。

直径36センチ、長さ45センチ。今の太鼓（直径45センチ、長さ60センチ）と比べると小ぶり。祭りで使ったことはなかったが、「子どもの練習用にちょうどいい」と、新井さんが近くの米町1丁目町内会に提供した。

革が張り替えられた太鼓は1日の打ち初め式直後の練習から登場。1歳から太鼓を打ち続ける武内椿季ちゃん（4）が鉦の音に体を揺らしながら力強くたたいた。「小さくてたたきやすかった」と椿季ちゃん。新井さんは「子どもたちに

は、太鼓をたたくことで祇園太鼓が昔から代々続いてきたことを感じてほしい」と話した。

19日まで練習で使い、20日午後2時から「おまつり広場」（小倉北区京町）でお披露目する。竹につるした「担ぎ太鼓」として、少

年組（中学生以下）が大勢の観客の前でたたく。当日は一般の人にも参加してもらう予定で、町内会の事務局長、禰峰晴さん（45）は「歴史の音を感じてもらって一緒に祭りを楽しんでもほしい」と話している。（金山隆之介）